

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和4年2月4日

提出区分	実績	整理番号	20	課題区分	C		
横断的な課題	コロナ下においても選ばれる安心・安全・持続可能な観光地域づくりを推進						
地域重点政策	2 四季折々に訪れ、北アルプスと安曇野の自然を満喫できる観光地域づくり				北アルプス地域振興局		
実施機関	北アルプス地域振興局			担当課	所属	商工観光課	
事業名	「北アルプス国際芸術祭」支援プロジェクト			電話	0261-23-6523(直)		
				E-mail	kitachi-shokan@pref.nagano.lg.jp		
事業の概要等	目的 (目指す姿)	「北アルプス国際芸術祭」に対する地域住民の関心を高め、受け入れ態勢を整備しつつ、誘客の一助となるよう県として側面から支援する。					
	現状と課題	本年10月に開催される「北アルプス国際芸術祭」は、大町市における一大イベントであるが、コロナ禍にあつて市民の関心が高まっているとは言えず、受け入れ態勢に課題があるため、県としてこのイベントを側面から支援し、地域住民の関心を高めることにより受け入れ態勢を整備し、誘客促進につなげる必要がある。					
	内容 (変更後の内容)	庁内若手職員によるプロジェクトチームを組織。地域住民の協力により誘客を促進するイベントを自ら企画し、実施する。 ①みんなでつくるモザイクアート ②松崎和紙を用いたアートワークショップ ③ペットボトルキャップでモザイクアート ④ハーバリウムを使ったアート体験 ⑤小中学生や親子を対象とした自然体験活動 ⑥自然×グルメ満喫MAPの作成					
	事業期間	令和3年8月		～	令和3年11月		
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考			
	みんなでつくるモザイクアート	・図案制作 ・モザイクアート制作	506,363	委託料	500,000		消耗品 6,363
	松崎和紙を用いたアートワークショップ	・アートワークショップ開催・作品展示	50,400	委託料	50,000		消耗品 400
	ペットボトルキャップでモザイクアート	・ペットボトル収集 ・モザイクアート制作	100,339	台紙パネル	67,760		消耗品 25,066 送料 7,513
	ハーバリウムを使ったアート体験	・ハーバリウム制作イベント開催	81,131	委託料	64,000		消耗品 17,131
	小中学生や親子を対象とした自然体験活動	・自然体験イベント開催	9,618	消耗品	9,618		
	自然×グルメ満喫MAPの作成	・掲載記事収集 ・マップ制作	0				
共通広報経費	・チラシ印刷 ・スタッフユニホーム作成 ・ロゴ制作	96,480	印刷代	19,664		委託料 30,000 消耗品 46,816	
合計			844,331				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	地元住民のイベント参加者数(運営及びイベント参加)		延べ1,000人	約1,890人	○ 達成		
	イベント参加者総数		300人	約210人	● 一部達成		
	参加者等のSNSへの投稿写真数		2,000枚	約820枚	○ 未達成		
	北アルプスCOOL便(ブログ)へのアクセス数		3,000PV	3,250PV			

○実績→成果

1 みんなでつくるモザイクアート

- ・イラストの原画は信濃大町観光大使の鉄拳氏に描いていただいた。
- ・写真は約820枚集まり、11月8日から11月30日までJR信濃大町駅内コンコースで展示した。
- 写真は一般の方から募集し、一般の方の芸術祭に対する機運醸成につながった。
JR信濃大町駅に設置したことにより、多くの観光客の目に留まることとなり、観光客をはじめとした駅利用者に対して芸術祭や地域のPRにつながった。

2 松崎和紙を用いたアートワークショップ(大町市SOPに参加)

- ・10月24日に大町市中心商店街「旧イトヤ」でワークショップを開催した。
- ・参加者数は67名
- 4、5とともに大町市主催「シャッターオープンプロジェクト(SOP)」※に参加し、市内中心市街地の空き家・空き地を活用し開催。空き家・空き地を有効活用したにぎわいの創出の一助となること^ができた。
- また、参加者に対し、作品作りを通して芸術に興味を持ってもらうきっかけを提供できた。
- 加えて、地元の名産である「松崎和紙」のPRをすることができた。

3 ペットボトルキャップでモザイクアート

- ・大町市内の全小中学校にペットボトルキャップの収集及び一部作品の制作に協力していただいた。
- ・約4900個のキャップを用いたモザイクアートは、10月1日から11月22日まで大町合同庁舎で展示した。
- ・キャップは約77,840個集まり、世界の子どもにワクチンを委員会(NPO法人)へ約72,880個送付した。
- 市内児童生徒が直接アート作りに関わったことで、児童生徒が芸術祭へ興味を持ってもらうためのきっかけを提供することができた。

4 ハーバリウムを使ったアート体験(大町市SOPに参加)

- ・10月23日に大町市中心商店街「旧イトヤ」でワークショップを開催した。
- ・参加者数は35人
- 講師には地元の生花店に協力してもらい、地域と連携した取組を行えた。また、参加者に対し、作品作りを通して芸術に興味を持ってもらうきっかけを提供できた。

5 小中学生や親子を対象とした自然体験活動(大町市SOPに参加)

- ・10月23日と24日に大町市中心商店街の空地でヒノキを用いてマイ箸作りを行った。
- ・参加者数は100人
- 講師は地域振興局職員が務め、地域振興局職員が地域と直接関わる機会とすることができた。

6 自然×グルメ満喫MAPの作成

- ・Googleマイマップを使い大北地域の飲食店と景観スポット掲載した。
- ・マップのアクセス数は1,945回(11月21日時点)
- 大系タイムス掲載「合庁だより」やイベントチラシで周知を行い、飲食店等のPRにつながった。

全体を通して

参加職員の政策形成・企画力の向上につながり、地域住民と協働するきっかけづくりの場となった。

※10/22～24開催。大町市・東京大学・信州大学の定住促進共同研究事業の一環として空き家・空き店舗の活用法を探るため、シャッターの下りにある空き店舗を期間限定で希望者に貸し出し、チャレンジショップとして活用してもらう取組

事業実績・成果

今後の方向性

地域の方と協働しながら各イベントを実行したことにより、地域とのつながりができたので、地域の取組に継続して参画していく。また、地域住民の芸術祭への関心及び誘客の一助となったと思うので、3年後に芸術祭が開催される際にも、県として機運醸成を図る取組を継続する。